

西村兵太郎

— 県議会で差別解消を訴える —

大洲市



西村兵太郎の銅像

西村^{ひょうたろう}兵太郎（1884～1935）は、長浜町出身で長浜町長・愛媛県議会議員・県議会議長を歴任し、長浜町をはじめ愛媛県下の政治・経済・文化のあらゆる面に大きな業績を残した政治家である。

大正8（1919）年11月27日、議員になって間もない兵太郎は、通常県議会で被差別部落の改善について発言し、「部落差別解消のためには、まず、第一に、行政の指導者が被差別部落内に入っていて、ひざを交えて話をし、地域の事情や人々の要求を知ることが大切であること。第二に、被差別部落と部落外の住民との結婚を奨励する方法を考えること。第三に、公務員や企業等への採用を積極的に働きかけ、就労の保障に努めること」の三点を要求している。すなわち、部落差別の解消に取り組む指導者が、「差別の現実に深く学ぶ」ことや結婚差別の解消及び進路保障に取り組むことの重要性を説いている。

第一次世界大戦後、世界的に人権尊重の意識が高まるなかで、兵太郎は部落差別を不合理なこととして捉える人権感覚をもち、部落差別の解消が行政の責務であると認識していた。同和問題の解決を「国の責務」であり、同時に「国民的課題」であるとして、就職と教育の機会均等の完全な保障をはじめ、同和問題解決のための数多くの提言がなされた「同和对策審議会答申」が出される45年も前に、このような差別解消への道筋を示した兵太郎の先進性には驚かされる。

彼は、県議会議員であるとともに、町長も兼務しており、役場にいるよりも町内の現場にいることが多く、「銭湯は社会大学じゃ」と言って町民と身近に接することに努めていたそうである。常に大衆と共にあって、豊かな人権感覚と時代の先を見つめる先進性をもった彼の政治姿勢から、私たちは学ぶことが多い。

現在、長浜町では、「西村兵太郎先生・絆の会」が発足して顕彰活動を行っている。

〔参考資料〕

長浜町誌編纂会 『長浜町誌』

久保七郎 『西村兵太郎』

愛媛県教育委員会 「人権の道をたずねて—地域の残された人権獲得の足跡—」

愛媛県教育委員会 「同和問題学習資料集」